

日本 DMORT ニュース第 11 号 (2022 年 11 月)

【目次】

1. 知床遊覧船沈没事故への派遣の検討(理事長からの報告)
2. 日本災害看護学会第 24 回年次大会での発表報告
3. 京都府警福知山署訓練報告
4. 京都府警察被害者等支援連携訓練報告
5. 令和 4 年度滋賀県総合防災訓練(遺族対応訓練)報告
6. 事務局からのお知らせ

#####

1. 知床遊覧船沈没事故への派遣の検討

(理事長：吉永和正)

2022 年 4 月 23 日午後に発生した知床遊覧船の沈没事故では乗客、乗員を合わせた 26 名が死亡または行方不明となりました。

4 月 25 日に理事の間から派遣の検討をしてはどうかという意見が出てきましたが、以前に北海道警察には派遣を断られたことがあり、アクセスが難しい場所であることもあって派遣の手がかりが得られない状況でした。理事それぞれが連絡のとれそうなルート of 模索を始めました。協定のある県警、法医学関係者、DPAT 事務局、国会議員など現地につながるような関係者にそれぞれが連絡をとりました。

4 月 26 日には自治体職員など関係者に役立ててほしいとマニュアル改定を行い、「DMORT 家族支援マニュアル 2022 年海難事故編」として法人のホームページで公表しました。

4 月 27 日になって、現場の管轄は北海道警察ではなく海上保安庁であることが判明しました。この時点で体調不良の理事長に代わって村上副理事長から正会員へ状況説明のメールが送信されました。

4 月 28 日に正会員を対象に 4 月 30 日から 5 月 15 日までの期間で活動可能な日程の調査を行ったところ、9 名の方から回答があり、毎日 2, 3 名の人員確保が可能なことは分かりましたが、海上保安庁との連携は現状では困難であることが明らかとなってきました。

4 月 29 日に理事長より派遣を断念する旨を正会員に伝えました。災害派遣では対応窓口を決めないで現地に行くという方法もありますが、今回は「事件」であり十分な話し合いのないまま現地に入れば禍根を残す可能性もあります。会員を見通しのないまま拘束することもできませんので、この時点で派遣の検討を一度収束することとしました。

5月2日には全会員あてに経過説明が副理事長からなされました。

今回の検討で課題として残ったのが海上保安庁との連携をどのようにとってゆくかということですが、これは後日、きっかけが見つかることとなりました。

<補足：その後の海上保安庁との連携について>

(副理事長：村上典子)

後述する京都府警察被害者等支援連携訓練(10月14日)で、第八管区海上保安本部(舞鶴市)と第五管区海上保安本部(神戸市)の方に、ごあいさつする機会をいただきました。海上保安庁は知床事故以降、多数死傷者発生事故の際の被害者(遺族)支援の必要性について痛感されたとのことで、今回の訓練に見学に来られたとのことでした。DMORTとしても、海上保安庁との連携は大歓迎であり、今後訓練や研修を一緒におこなっていただけたらとお伝えしました。

2. 日本災害看護学会第24回年次大会での発表報告

(愛知医科大学病院：櫻川真由子)

2022年9月に開催されました第24回日本災害看護学会で発表する機会を頂きました事に感謝しています。その際に、昨年7月に発生した熱海土石流災害に初の家族支援活動に派遣され、DMORT実働内容と多くの課題について発表させて頂きました。発表への質問等があり『家族控室はどれくらい確保されたのか』『今後どの様にDMORTの周知をしていくのか』など関心のある質問が多々ありました。また、今回の家族支援活動に対しての感謝のお言葉も頂き嬉しく思いました。

私は、家族支援活動が初でしたので、その経験をした事を、学会を通じて皆様にお伝えする必要があると感じました。発表にあたり、ご協力を頂きました皆様に感謝すると共に、今後いつ発災するかわかりませんが、会員の皆様からのアドバイスを頂きながら、あらゆる訓練や研修を通じて自分磨きをし、今後も派遣してもらえる様に努力していきます。

最後に、家族支援活動に派遣して頂き、ありがとうございました。

3. 京都府警福知山署訓練報告

(愛知県支部：稲波泰介)

9月の残暑の中、私は愛知支部の仲間の新田救命士と京都行き始発新幹線に乗りました。お迎えの黒川理事と合流して初めての特急きのさきに乗り込み、山間地が近づくと連れて、涙とくしゃみの花粉症症状に耐えながら百人一首の六十番を頭の中で詠んでいました。



コロナ第七波の影響もあり、理事の方々の参加が厳しい中で、チームは黒川理事をリーダーとして、正会員の浅田さん、新田さんと自分の計4名の少数精鋭の中、チームのサブリーダーを意識した責任感と3年ぶりの訓練という緊張感を持ち福知山の地に降り立ちました。

(←開会式)

全3症例4役の中で、自分は1症例目と3症例目を対応しました。



今回参加するにあたり、マラソンランナーの心得から、押しつけになりすぎない様な行動を心がけてご遺族のニーズに合わせた対応を段階を踏んで行なう事を意識して臨みました。訓練中は、ご遺族の方を後ろから支えたり、警察とご遺族の間を調整したり、警察の方が対応に困っているアイサインを受けた時には一歩前に出たり等、立ち位置を調整しながらDMORTメンバー同士でもお互いの役割を確認して連携しました。ただ一点の反省として、若干、主体的かつ積極的な声かけが足りないという反省が残りました。



炎天下の中、見学中の学生が倒れる程の白熱した内容の訓練は無事に終了しました。終了後にご遺族役の府警の方から「警察とDMORTに支えてもらった」「2人のそっと添えられた手の温もりを感じ

た」「辛いタイミングでそばにいてもらえた」等の意見が聞かれ、改めてどう声かけや行動するのかではなく、どう寄り添うかという事が大切に気づきました。技ではなく心で対応する原点を再認識し、対象にとって、こちらが何者かではなく、誰かがそばにいる事が重要だと学びました。

訓練の講評が終了し、一緒に訓練をした福知山署の方々から「対応中DMORTさんの顔が見れて安心した。頼りになった」「一緒に遺族支援をしていると我々自身の支えにもなった」「いてくれて安心できた」と感謝のお言葉をかけ

てもらい、ご遺族支援と一緒に出来たという温かさを自分自身も感じました。帰宅時には、また会おうと握手を交わした手の温もりを感じたまま、福知山の地を後にしました。京都府警とDMORTの連携を肌で感じ、普段から京都内で良い関係作りがなされているのだと理解し、同じ様に協定を結ぶ愛知も、より県警との連携と協働が大事だと思いました。

コロナ禍の中でも警察や行政の「支える」という行動が根づいて来ており、「お互いに支援し合う」ということが拡散し、日本全国にヒトとヒトの和と温かみが広まり、辛さをゼロには出来なくても、心の痛みを少しでも和らげる様な活動が広がって行くといいなと思いました。

訓練参加に当たり、暖かく迎えていれて下さった京都府警の皆様、支援して下さいました理事長・副理事長及び理事の皆様、代表して参加させていただいた正会員の皆様に深く感謝致します。今後訓練や研修会、マニュアル改訂等の課題は沢山ありますが、力を注いで参りますので、引き続きご支援ご指導をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

日時:2022年9月15日(木) 9:00~12:00

場所:福知山公立大学内屋外テント(仮設霊安室)

目標:遺族対応の役割を果たす

目的:落ち着いた支援をする(あくまで支援という意味で警察と協働)



4. 京都府警察被害者等支援連携訓練報告

(京都市消防局 山岡辰朗)

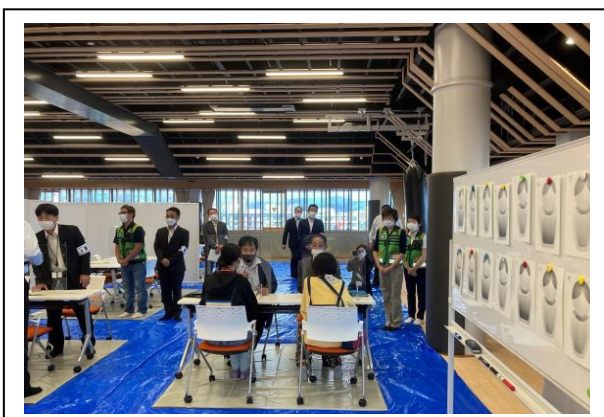
2022年10月14日(金)、京都府警本部において、昨年に続き2回目の京都府警との連携訓練が開催され、私も昨年に引き続き参加させていただきました。今回は、警察の他、府内市町村の行政担当者も参加されました。DMORTから

は、村上副理事長、黒川理事、久保山理事、河野理事、愛知県支部看護師の稲波さん・櫻川さん、京都メンバー看護師の山口さん、救急救命士の山岡が参加しました。

内容は、

- ・「遺族支援のポイント、具体的支援要領について」説明（黒川理事）
- ・ロールプレイングと班別意見交換
- ・検視訓練
- ・「災害急性期の遺族心理」講義（村上副理事長）

（ロールプレイングと村上副理事長の講義は同時並行で交代制）



今回も家族役で、学校法人瓜生山学園京都芸術大学芸術学部舞台芸術学科演技・演出コースの4回生が参加、現役警察官も家族役となり、迫真の演技力で、まさに現場を彷彿させる臨場感を醸し出してくれました。

想定は、地震で死亡した子どもと30歳代の男性の遺体確認の2事例でした。参加者の中には現場対応の経験の少ない方もいらっしゃいましたが、緊張感あふれる雰囲気の中で、家族を受け入れ、寄り添いながら丁寧な説明をされていました。今回は、所持品・遺留品の引き渡しの場面もあり、より現実的なロールプレイができたように思います。



その後のDMORTがファシリテーターとして参加した班ごとの振り返りでは、訓練参加者は現場対応の難しさを話されていましたが、訓練が実現場でどのように活かせるか考える貴重な経験であったと発表されていました。今回の訓練と意見交換を通じて、家族が意思決定をするための支援を、警察・行政とDMORTがどのような役割を担うのか、各機関が考えることにつながったと実感しました。各機関との訓練を継続することは、信頼関係を築き役割を理解するためには不可欠です。この積み重ねが、災害に関係する人の支援に少しでも繋がっていけばと考えます。

5. 令和4年度滋賀県総合防災訓練（遺族対応訓練）報告

2年間、コロナで中止となっていた滋賀県総合防災訓練が、今年10月16日（日）に滋賀県長浜市で行われました。最大震度6強の地震、大型台風通過後の河川の氾濫と多重災害の想定をされ、我々は、長浜市立東中学校体育館に設置された遺体安置所での、検視、検案および遺族対応訓練に参加しました。



例年のごとく家族役には、おうみ犯罪被害者支援センターの方が演じられ父親役の方は元警察官で、迫真の演技に現役警察官もたじろぐ場面もありました。しかし、警察の方も行政職員の方も、ご家族の言葉に耳を傾け、丁寧に対応されていました。行政の方は、ご家族にご遺体の名前の公表について確認を取るといったデリケートな職務内容で、話を切り出すタイミングの難しさを実感されていました。



ご遺体は、子供と40代男性の2事例に、DMORT役には、研修を終えた滋賀県のメンバー4名（大津赤十字病院 岩永・植田、長浜赤十字病院 柴田・押谷）が対応しました。また、DMORT医師役には、鈴田医師が担当しました。DMORTが、介入するタイミングやご家族のニーズに合った支

援や情報提供の難しさを実感した訓練になったようです。訓練は滋賀県知事も見学され、DMORTの意義をご理解くださったようでした。

また、今回は5名の会員の方々が、遠くは東京・静岡から見学にこられました。振り返りの際に見学の皆さまからコメントをうかがいました。

中澤医師：多数のご遺体が安置されている中、実際にこんなに時間をかけて丁寧に対応できるかどうか。DMORTも少ないのではないかな。

家持看護師：ご家族に「大丈夫です」といわれたら、そのあとどう対応したらいいのかな。

高木ロジ：他職種の混成チームであり、臨時の施設での活動には、まずは、チームビルディングが必要である。

下野看護師：不用意な「大丈夫ですか？」という声掛けは注意が必要だと思う。

家族対応は難しい。言葉はなくても寄り添うことの大切さがわかった。

三戸部医師：ご家族が移動をしなくてはいけないのはどうか。車いすの準備など必要である。



以上、貴重なご意見もいただきありがとうございました。

より現実的な訓練を行うためには、検視班との連携や書類の整合性のチェックや所持品や遺留品の仕込みなど、綿密な打ち合わせが必要だと感じました。今後の訓練の課題

でもあると考えます。

滋賀県の検視・検案および遺族対応訓練には、毎年 DMORT が参加しているにもかかわらず、残念ながらまだ滋賀県警とは事前協定が結べていません。今後、更なる発展を遂げるように理事会でも努力してまいります。村上副理事長・浅田調整員他、参加いただきました皆様、ありがとうございました。

6. 事務局からのお知らせ

2022 年 10 月末現在での会員状況をお知らせします。理事 8 名、正会員 19 名、登録会員 167 名、賛助会員 3 名（団体）です。

よく「自分は登録会員なのか、正会員なのか」というお問い合わせをいただきますが、基本的にはほとんどの方は「登録会員」となります（会費 3000 円）。正会員は従来の世話人や、今までに訓練に参加くださったり、研修会のタスクをして下さったり、積極的に運営に関わって下さる意思のある方などで、理事から推薦させていただいております（会費 1 万円）。正会員名はホームページで公開しておりますのでご確認ください。

当法人の会計年度は 1～12 月ですので、年が明けましたら会費納入をよろしくお願ひします。また今年度の会費が未納の方はお振込みをよろしくお願ひいたします。ご自身が会費納入をしているかが不明の方は事務局までお問い合わせください。訓練参加やタスク参加など、会員限定の特典もありますので、是非引き続き会員になっていただけるよう、よろしくお願ひいたします。なお 2 年間会費が未納の方は退会となります。

【理事名簿】

理事長：吉永和正（医療法人協和会副理事長）

副理事長：村上典子（神戸赤十字病院心療内科部長）

理事：

北川喜己（名古屋掖済会病院副院長）・愛知県支部長

久保山一敏（京都橘大学健康科学部教授）

黒川雅代子（龍谷大学短期大学部教授）

河野智子（京都第一赤十字病院看護部）

長崎 靖（兵庫県監察医務室）

山崎達枝（長岡崇徳大学看護学部看護学科准教授）

監事：

鶴飼卓（兵庫県災害医療センター顧問）

【事務局所在地】

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-15-1 協和マリナホスピタル内

電話：0798-32-1112（代） F A X：0798-32-1222

<http://dmort.jp>

E-mail：information@dmort.jp

<編集後記>

本来は夏頃に発行の予定でしたが、遅れてしまいました。毎回のように「発行が遅れてすみません」と謝っているような気がいたします。本当に申し訳ありません。今回は訓練報告がたくさんありましたが、それでも愛知県のセントレア空港訓練など中止になった訓練もありました。

次号では11月13日に3年ぶりに愛知で開催された「第25回DMORT養成研修会」について、報告させていただきます。やはり久しぶりの対面研修会はいいなと痛感いたしました。

どうか今後とも会員として、当法人を支えていただきたく、よろしく願いいたします。

（編集担当：村上典子）